

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 18022

建築物名称	プラウド中野島
建築主	野村不動産株式会社 住宅事業本部 事業推進三部長 足立 総一郎
建築物の所在地	川崎市多摩区布田1662番1
設計者氏名、建築士事務所名	中條 広隆 株式会社長谷工コーポレーション 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	5,053.07m <sup>2</sup>
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上7階
工事完了予定年月	平成32年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

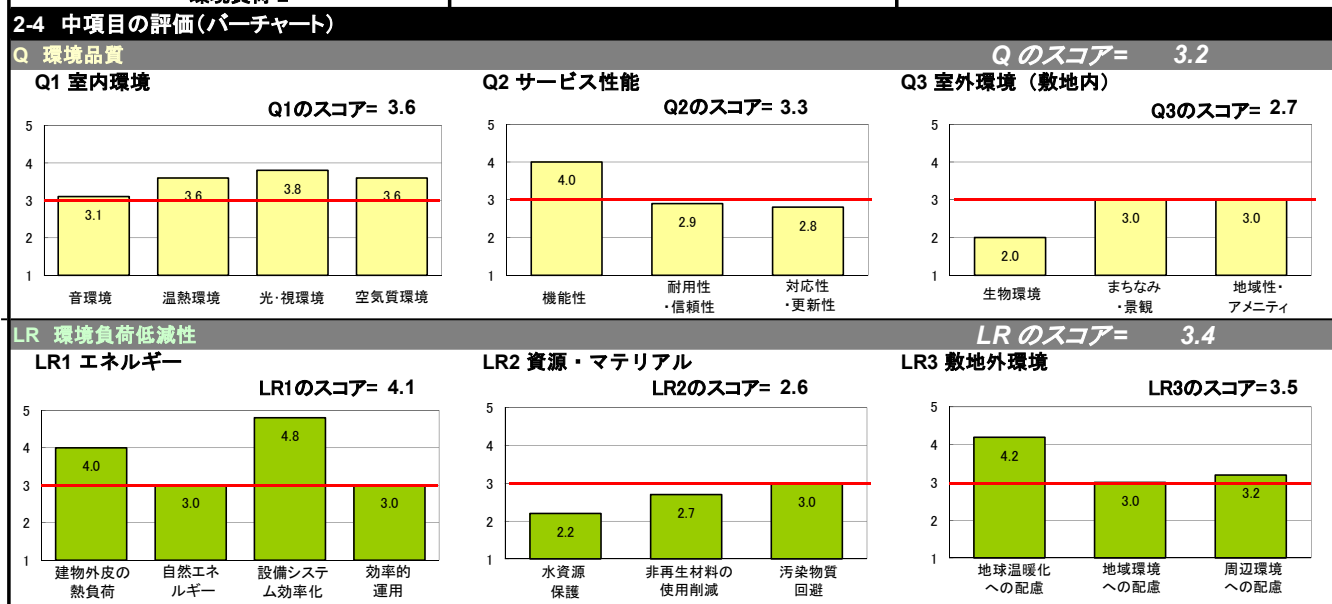
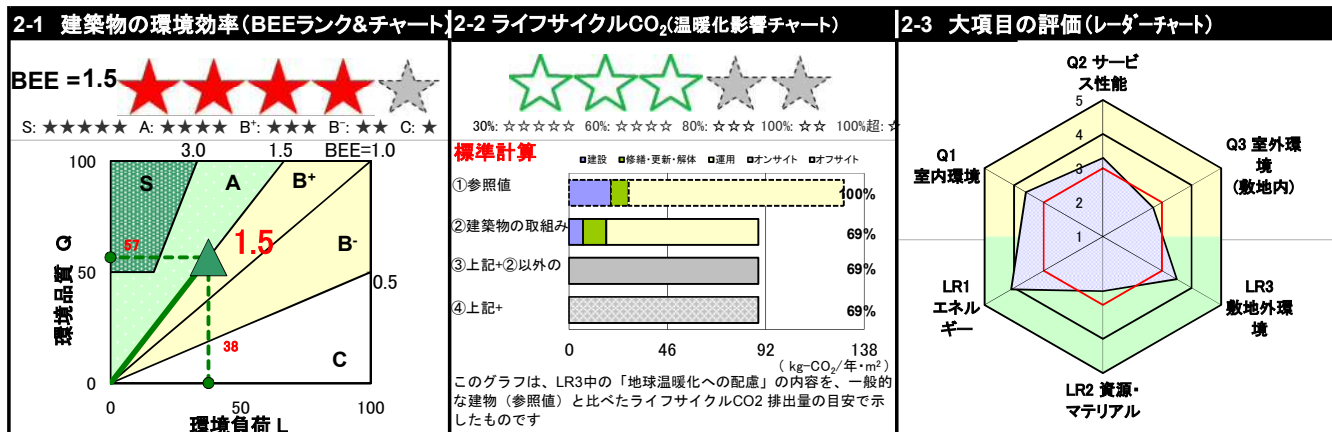
# CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.2)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観		18022
建物名称	ブラウド中野島	階数	地上7F	外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください
建設地	川崎市多摩区布田1662番1	構造	RC造	
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	217 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年7月26日	
敷地面積	2,303 m <sup>2</sup>	作成者	長谷工コーポレーション	
延床面積	5,053 m <sup>2</sup>	確認日	2018年8月6日	
		確認者	長谷工コーポレーション	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.8</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針の基準に適合、屋上緑化		
2 まちなみ・景観への配慮		2.3/4.3	2.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率40%以上、緑被率・中高木の水平投影面積率10%以上		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	潜熱回収型エコジョーズを採用、断熱等性能等級4を取得	0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>3.2</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	断熱等性能等級4を取得		
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備		5.6/7.2	3.9
3.2 3.2.1 昼光制御	バルコニー及び、カーテンレールの設置		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針の基準に適合、屋上緑化		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率40%以上、緑被率・中高木の水平投影面積率10%以上	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級4を取得		
2 自然エネルギーの利用		4.1/5.0	4.1
3 設備システムの高効率化	潜熱回収型エコジョーズを採用		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。LGS工法を使用。	2.5/4.7	2.6
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	潜熱回収型エコジョーズを採用、断熱等性能等級4を取得	0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	構造躯体等劣化対策等級3	0.3/0.5	3.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。LGS工法を使用。	2.1/4.0	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	住戸数の2倍以上の駐輪場を確保	0.3/0.4	3.6
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>3.1</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針の基準に適合、屋上緑化		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率40%以上、緑被率・中高木の水平投影面積率10%以上	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級4を取得		
2 自然エネルギーの利用		4.1/5.0	4.1
3 設備システムの高効率化	潜熱回収型エコジョーズを採用		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	潜熱回収型エコジョーズを採用、断熱等性能等級4を取得	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	構造躯体等劣化対策等級3	0.1/0.1	5.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級4を取得		
2 自然エネルギーの利用		4.1/5.0	4.1
3 設備システムの高効率化	潜熱回収型エコジョーズを採用		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体				
配慮項目	重点項目				評価点		重み係数	評価点	重み係数						
Q	G	W	R	H											
<b>Q 建築物の環境品質</b>											<b>3.2</b>				
<b>Q1 室内環境</b>											<b>3.6</b>				
<b>1 音環境</b>											<b>3.1</b>				
1.1 室内騒音レベル											3.0	0.15	3.1	1.00	3.1
1.2 遮音											3.0	0.50	3.3	0.50	
1 開口部遮音性能											3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能												-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												-	3.0	0.20	
1.3 吸音												-		-	
<b>2 温熱環境</b>											<b>1.0</b>	<b>0.35</b>	<b>4.0</b>	<b>1.00</b>	<b>3.6</b>
2.1 室温制御											1.0	0.50	4.0	1.00	
1 室温											1.0	0.63	-	-	
2 外皮性能											1.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性												-		-	
2.2 湿度制御											1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式											1.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>											<b>2.4</b>	<b>0.25</b>	<b>4.0</b>	<b>1.00</b>	<b>3.8</b>
3.1 昼光利用											3.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率											3.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口												-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備											3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策											1.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御											1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度											3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御											3.0	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>											<b>3.6</b>	<b>0.25</b>	<b>3.6</b>	<b>1.00</b>	<b>3.6</b>
4.1 発生源対策											4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質											4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気											3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量											3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能												-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮											3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理												-		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視												-		-	
2 喫煙の制御												-		-	

Q2 サービス性能				—	0.30	-	-	3.3	
<b>1 機能性</b>					<b>3.0</b>	0.40	<b>4.2</b>	1.00	<b>4.0</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>					<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1	広さ・収納性								
2	高度情報通信設備対応			インターネット1Gバイトを確保			5.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00			
<b>1.2 心理性・快適性</b>					<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1	広さ感・景観						3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				3.0	1.00	3.0	0.50	
3	内装計画								
<b>1.3 維持管理</b>					<b>3.0</b>	0.30			
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>					<b>2.9</b>	0.30			<b>2.9</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>					<b>3.0</b>	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>					<b>3.4</b>	0.30			
1	躯体材料の耐用年数	R		住宅性能表示制度 構造躯体劣化等級3を満たす	5.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R			3.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		給水:SUS(C)、汚水排水:VP(B)、雑排水:VP(B)、Eは不使用	5.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			2.0	0.20			
<b>2.4 信頼性</b>					<b>2.2</b>	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				1.0	0.20			
<b>3 対応性・更新性</b>					<b>3.0</b>	0.30	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>							<b>2.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり						3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ						2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>							<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>					<b>3.0</b>	1.00			
1	空調配管の更新性				3.0	0.20			
2	給排水管の更新性				3.0	0.20			
3	電気配線の更新性				3.0	0.10			
4	通信配線の更新性				3.0	0.10			
5	設備機器の更新性				3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					—	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				G W H	<b>2.0</b>	0.30			<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				G	<b>3.0</b>	0.40			<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>					<b>3.0</b>	0.30			<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>					<b>3.0</b>	0.50			
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				G W H	<b>3.0</b>	0.50			

LR 建築物の環境負荷低減性										3.4	
LR1 エネルギー										4.1	
1 建物外皮の熱負荷抑制				W		H	住宅性能表示制度 断熱等性能等級における等級4を取得	4.0	0.20	4.0	
2 自然エネルギー利用				W		H		3.0	0.10	3.0	
3 設備システムの高効率化				W		H	[BE][BEIm] = 0.86	4.8	0.50	4.8	
4 効率的運用								3.0	0.20	3.0	
集合住宅以外の評価											
4.1 モニタリング				W		H					
4.2 運用管理体制				W		H					
集合住宅の評価								3.0	1.00		
4.1 モニタリング				W		H		3.0	0.50		
4.2 運用管理体制				W		H		3.0	0.50		
LR2 資源・マテリアル											2.6
1 水資源保護				W		R		2.2	0.20	2.2	
1.1 節水								1.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60		
1 雨水利用システム導入の有無								3.0	1.00		
2 雑排水等利用システム導入の有無											
2 非再生性資源の使用量削減								2.7	0.60	2.7	
2.1 材料使用量の削減				W		R		2.0	0.10		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W		R		3.0	0.20		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W		R	-	3.0	0.20		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W		R	-	1.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W		R		3.0	0.10		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W		R	LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法としている。	4.0	0.20		
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.0	0.20	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30		
3.2 フロン・ハロンの回避								3.0	0.70		
1 消火剤				W				-	-		
2 発泡剤(断熱材等)				W				3.0	0.50		
3 冷媒				W				3.0	0.50		
LR3 数地外環境											3.5
1 地球温暖化への配慮				W			ライフサイクルCO2の排出率:69%	4.2	0.33	4.2	
2 地域環境への配慮								3.0	0.33	3.0	
2.1 大気汚染防止								3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H		3.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.2	0.25		
1 雨水排水負荷低減						R		3.0	0.25		
2 汚水処理負荷抑制						R		3.0	0.25		
3 交通負荷抑制						R	(駐輪台数124台:200%)	4.0	0.25		
4 廃棄物処理負荷抑制						R		3.0	0.25		
3 周辺環境への配慮								3.2	0.33	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40		
1 騒音								3.0	1.00		
2 振動								-	-		
3 悪臭								-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40		
1 風害の抑制								3.0	0.70		
2 砂塵の抑制											
3 日照障害の抑制								3.0	0.30		
3.3 光害の抑制								4.4	0.20		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策							広告物照明を行っていない	5.0	0.70		
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30		

18022

## プラウド中野島

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る  
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に  
基づいています。